

め、本県沿岸には2～3ktの黒潮系暖水（暖）～黒潮水の北上流が分布した。

オ 平成12年及び平成13年の水塊構造を比較したところ、次のような共通点がみられた。

- ・ 142° N以西の海域に黒潮系暖水の南下流（0.5kt～1.5kt）がみられ、とくに秋季～冬季で顕著であった。

- ・ 東経142°以西の海域には、黒潮系暖水の北上はほとんど見られなかった。

- ・ 親潮水～親潮系冷水の南下は、概ね142°～142° 30' E付近からであった。

カ 以上の結果、本県沿岸の水塊分布のパターンを大まかに把握することができ、年により異なる海況でも共通の流況パターンを見出すことができた。また、他県海域の流況データで補完することにより、海況予測にも活用できるものと考えられた。